

東日本防滑振興会

清水雅雄代表発起人に聞く

床面に対する防滑意識が低く、転倒事故を招いている。防滑施工業者による東日本防滑振興会(事務局・名古屋市中村区名駅3ノ23ノ16)が国土交通省に協同組合化の認可を申請し、近く設立を目指す。代表発起人の清水雅雄さんに設立の目的や展望を聞いた。(聞き手は名古屋支局 滝秀紀)

防滑振興会設立の経緯は。

「また多くの施設で床に対する防滑意識が低く、多くの転倒事故が発生している。2008年度の厚生労働省人口動態統計によると年間7170人が転倒・転落事故で尊い命を亡くされている。このような背景から、防ぎのついでにできる転倒事故を一つでも減らすことを目的とする中小企業者

を募り、東日本防滑振興会を設立した」

「東日本防滑振興会を協同組合化する目的は。」

「2つ目は、組合員が

最後の4つ目として、組合員の防滑技術の向上を目指すとともに、事業経営に関する知識向上を図る。さらに、滑り測定、防滑技術の検定を行い、免許を発行するなど滑り測定士や防滑技能士を育成していきたい。これらの免許取得者が測定、施工を行った現場に対し、滑り抵抗値測定結果報告書を発行し、確かな技術



「3つ目は、社会的認識の薄さ『防滑』の重要性を広く告知すること。その

協同組合化を認可申請

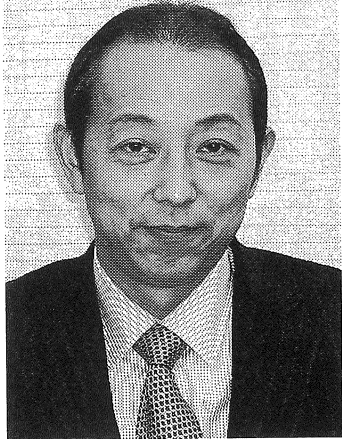
全国統一基準提供へ

「1つ目は、共同受注事業を通して、大手企業に對抗し得る力を持ち、公正な競争化において地

施工する防滑工事に対して、安心・安全を提供したいと考えている」

「滑り抵抗値の測定方法はいくつかあるが、多くは個々の勘や経験のみに頼った測定(値)ではなく、客観的な立場で、数値で床の滑り度を評価する全国統一の基準となるようにしたい。そのために、収集蓄積されたデータを防滑工事の品質管理に利用するほか、外部専門家と共同で分析すること、床材メーカー、滑り止め工事業界全体のレベルアップにつながる。また、施設管理者には、定期的な床の滑り測定を実施することで、施設内転倒事故に対するリスクマネジメントに活用できると考えている」

「すでに西日本防滑振興会(事務局・大阪市、組合員34団体)が協同組合として認可を受けている。東日本防滑振興会も協同組合として認可された後には、東日本防滑振興会と西日本防滑振興会による連合会を結成し、さらには社団法人化も視野に入れている。また、国に防滑施工の法制化や義務化を訴えたい」



「3つ目は、社会的認識の薄さ『防滑』の重要性を広く告知すること。その

「すでに西日本防滑振興会(事務局・大阪市、組合員34団体)が協同組合として認可を受けている。東日本防滑振興会も協同組合として認可された後には、東日本防滑振興会と西日本防滑振興会による連合会を結成し、さらには社団法人化も視野に入れている。また、国に防滑施工の法制化や義務化を訴えたい」

「3つ目は、社会的認識の薄さ『防滑』の重要性を広く告知すること。その

「3つ目は、社会的認識の薄さ『防滑』の重要性を広く告知すること。その